

皆様おはようございます。9月も折り返しに入りました。朝晩涼しくなって参りましたが皆様お元気でいらっしゃいますでしょうか。

使徒言行録もう7章に入りました。ステファノの説教の箇所が始まりました。

長い長い説教です。前章の終わりの所ではこうありました。

ステファノは最高議会サンヘドリンで、人々のそそのかしと扇動と偽証の中にありました。そしてまたお歴々の前に立たされ、偽証人はステファノはこういっていたと嘘をついて証言しました。

「あのナザレの人イエスは、この場所を破壊し、モーセが我々に伝えた慣習を変えるだろう。」そんなことをイエス様が言っていたとステファノが証言するわけがないわけですけども、とんでもない証言を前にして、彼らが最も大事にする律法と神殿が汚されていると、彼らはかんかんになっている訳です。

そして訴えられているその人はどのような顔してるかと、人々がステファノに注目すると、その顔はさながら天使の顔のように見えたと言われていると聖書に書いてあります。彼の顔は聖霊と確信とに輝いていたのです。

そしてステファノが語り出します。

イエス様は律法も神殿をも軽んじるお方ではない。律法とは、神殿とは改めて一体何だろうか。イスラエルとは、私たちの民族とは何であろうかと彼は語り始めるのです。

神様は私たちイスラエルをどのように導かれたのか、その事柄を語り始めるのです。

「兄弟であり父である皆さん、聞いてください。わたしたちの父アブラハムがメソポタミアにいて、まだハランに住んでいなかったとき、栄光の神が現れ、  
7:3 『あなたの土地と親族を離れ、わたしが示す土地に行け』と言われました。

7:4 それで、アブラハムはカルデア人の土地を出て、ハランに住みました。神はアブラハムを、彼の父が死んだ後、ハランから今あなたがたの住んでいる土地にお移しになりましたが、

7:5 そこでは財産を何もお与えになりませんでした、一步の幅の土地さえも。しかし、そのとき、まだ子供のいなかったアブラハムに対して、『いつかその土地を所有地として与え、死後には子孫たちに相続させる』と約束なされたのです。

アブラハムには実の子がいませんでした。

創世記15章

15:1 これらのことの後で、主の言葉が幻の中でアブラムに臨んだ。「恐れるな、アブラムよ。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きいであろう。」

15:2 アブラムは尋ねた。「わが神、主よ。わたしに何をくださるというのですか。わたしには子供がありません。家を継ぐのはダマスコのエリエゼルです。」

15:3 アブラムは言葉をついだ。「御覧のとおり、あなたはわたしに子孫を与えてくださいませんでしたから、家の僕が跡を継ぐことになっています。」

15:4 見よ、主の言葉があった。「その者があなたの跡を継ぐのではなく、あなたから生まれる者が跡を継ぐ。」

15:5 主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」

子孫もないのに、奴隷の子供がつくと言っているのにあなたの子孫を星を数えることができないほどに祝福すると言われても一体どういうことなんだろうと思うわけです。

しかし、神様はこう語られます。

「恐れるな、アブラムよ。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きいであろう。」

神様は非常に壮大なスケールのことを常に考えておられます。しばしば、いやいつも、私たちはそれを捉えることは出来ません。しかしそれは神様のお約束なのです。

『いつかその土地を所有地として与え、死後には子孫たちに相続させる』と約束なさったのです。

そうしたうえで、「いつか」との約束を信じて、訳も分からないまま、『あなたの土地と親族を離れ、わたしが示す土地に行け』と言われるのです。そうです。主の示すとおりに、指し示し、指をさすところに、神様が一步一步私たちにベールをはぐようにして掲示されるその一步一步についていく、私たちはそういう従順の、信仰の訓練を賜っているのです。

ここに神様の圧倒的な主権があります。なぜ不安があり、見てもいない見たこともない地へ出て行かなければならないのか。それも高齢になって、なぜイスラエルが奴隷にされるとわかった上でエジプト後に行くのか。どうして神様はアブラハムに対して息子イサクを捧げよなどとおっしゃるのか。これと同じように、分からないこと、苦しいこと、そういうことが私たちの人生には訪れます。大きな苦難。今日も苦難という言葉が何とか書かれています。それとともに約束もまた与えられているということが記してあります。

5 そこでは財産を何もお与えになりませんでした、一步の幅の土地さえも。しかし、そのとき、まだ子供のいなかったアブラハムに対して、『いつかその土地を所有地として与え、死後には子孫たちに相続させる』と約束なされたのです。

7 更に、神は言われました。『彼らを奴隷にする国民は、わたしが裁く。その後、彼らはその国から脱出し、この場所でわたしを礼拝する。』

「その国から脱出し、この場所で私を礼拝する」これが私たちの持つ希望です。

確かにまたこの約束の地に戻ってきて、大国エジプトの苦役の場所から脱出してこの場所で私をまた礼拝するようになるから、そういう約束があるから、今あなたの土地と親族から離れ保証の中、約束の中から、安寧の中から立ち上がり私があなたに示す指し示す土地に土地に行きなさいと神様は語られます。

私は 1996 年ある宣教師の先生から青年の大会にて次のメッセージをお聞きしました。その時の箇所はマタイの 28 章でして、そこにはこのように書かれています。

28:18 イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。

28:19 だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、

28:20 あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

この宣教師の先生はこうも語られました。イギリスには女王がいます。議会は法案を決議するとその法案を女王の前に持って行って、女王様、この法案にサインをしてくださいと頼みます。そして女王はサインをして、法案が定まります。しかし仮に女王がサインを拒んだとしても、イギリスは立憲君主制ですから、憲法の上に成り立っている王政ですから、仮に女王がサインを拒んだとしても、憲法によって定められている議会が優先するのでその法案はサインがなくても効力を発揮するのだそうです。続けて宣教師の先生は語りました。

しかし神様の国は絶対君主制です。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。」と語られているとおりです。

私たちもまた、人生に計画があります。願いがあります。「人生の計画書」というタイトルで、私たちはこれこれをしたい、これこれをご勘弁と、色々と紙に書いたとします。私たちはそれを神様の所に持っていき、これが私たちの

願いですから、どうぞ神様祈り求めます。このようにお願いしますと祈ります。そして祈りが聞かれなくても、お答えがないようですので、私たちは考えたようにさせて頂きます。あなたの同意は結構ですなどと考えがちです。

しかしと、宣教師の先生は語られました。

「白紙をもってきて、人生の計画書とタイトルを書きなさい。そして何も書かずに、先にあなたの署名をしてしまいなさい。そしてそのままその神を神様に差し出しなさい。これが絶対主権者である神様との対し方です。」

「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、

28:20 あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

世の終わりまで神様が共にいて下さるのです。そして私たちを力と恵みとに満たして用い、遣わしてくださるのです。私たちのことを誰よりもよくご存じの神様がそのように私たちのことをご自身にゆだねなさいと語られ、神様は私たちの生涯を素晴らしくお導き下さるのです。そのことがここ3節にある、「3 『あなたの土地と親族を離れ、わたしが示す土地に行け』」という意味です。

あなたの土地と親族を離れ私が示す土地に行きなさい、神様はそのように私たちにどこへ行くかを明確に指し示し、日に日に指さして、一日一日ベールを取るようにして私たちに開示され、啓示をなさって示してくださいます。そして明らかにされかつそれに従うそのことを私たちは学ぶために従順を学ぶために諸々の困難をも経験させていただくのではないのでしょうか。

4 それで、アブラハムはカルデア人の土地を出て、ハランに住みました。神はアブラハムを、彼の父が死んだ後、ハランから今あなたがたの住んでいる土地にお移しになりましたが、

7:5 そこでは財産を何もお与えになりませんでした、一步の幅の土地さえも。しかし、そのとき、まだ子供のいなかったアブラハムに対して、『いつかその土地を所有地として与え、死後には子孫たちに相続させる』と約束なされたのです。

どこか分からない、苦勞がたくさんあります。もう高齢です。色々な事が思われますが、神様は祝福をすでに約束して下さいました。指し示す土地に行ったのはいいですけれども1歩の幅の土地さえも財産を何もお与えになりませんでした。子孫を祝福するといっても子供がいません。な

ぜ、どうして、どうやってと、頭の中に疑問が駆け巡ります。しかし神様は約束してくださったのです。

いつかその土地を所有家として与え、子孫たちに相続させると実の子もいないアブラハムにそのような約束をなさり、アブラハムはそれを信じました。ここに祝福を頂く鍵があります。私たちは所詮考えても分からないのです。イサクを捧げよですとか、エジプトでの苦役ですとか、私たちには度重なる試練があります。苦難があります。理解できないことが押し寄せます。

そのあとで6節による予告されていますように、外国で400年の間奴隷にされて虐げられることとなります。10節、11節に「苦難」という言葉がありますが、これは苦悩、新通、悲嘆、悩みの種、苦痛、極度の疲労、困窮、苦境、貧苦、窮乏を意味します。

9 この族長たちはヨセフをねたんで、エジプトへ売ってしまいました。しかし、神はヨセフを離れず、

7:10 あらゆる苦難から助け出して、エジプト王ファラオのもとで恵みと知恵をお授けになりました。そしてファラオは、彼をエジプトと王の家全体とをつかさどる大臣に任命したのです。

しかし、しかしです。しかし、神はヨセフを離れず、

7:10 あらゆる苦難から助け出して、エジプト王ファラオのもとで恵みと知恵をお授けになりました。

そして7節にありますように、彼らはその国から脱出し、この場所でわたしを礼拝する、このようになるのです。

困窮や苦しみはひと時の間。主が指し示すところにゆだねて進む人のためには、「神はヨセフを離れず、あらゆる苦難から助け出して、エジプト王ファラオのもとで恵みと知恵をお授けになりました。」との祝福があります。

彼らはその国から脱出し、この場所でわたしを礼拝する、このようになるのです。

共同訳マタイ 9:13 『わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。』

ホセア 6:6 わたしが喜ぶのは／愛であっていけにえではなく／神を知ることであって／焼き尽くす献げ物ではない。

創世記 15:1 これらのことの後で、主の言葉が幻の中でアブラムに臨んだ。「恐れるな、アブラムよ。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きいであろう。」

1 コリント 10:13 あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。